

# 第1学年A組 国語科学習指導案

日 時 平成21年11月27日（金）3校時  
場 所 隠岐の島町立西郷南中学校  
学 級 1年A組（男子13名・女子11名）  
授業者 教 諭 若本 恵子

1. 単元名 五 「真実を語る」  
教材名 「未来をひらく微生物」

## 2. 単元の目標

- ・微生物と環境について関心を持ち、自分とのかかわりを考えながら進んで読むことができる。（関・意・態）
- ・伝えたい事実や事柄、自分の意見や感想を明確にして文章をまとめることができる。（書く能力）
- ・指示語や接続語に注意し、段落と段落の関係を読み取ることができる。（読む能力）
- ・語句についての理解を深め、文脈の中でとらえることができる。（言語についての知識・理解・技能）

## 3. 学習の基盤（生徒観は省略）

### 教材観

本単元「五 真実を語る」は、第1学年では2回目となる説明的文章の読み取りを中心とした単元である。「二 視野を広げる」での学習を生かして、説明的文章の読みをより確かなものにすることができると考える。本教材「未来を開く微生物」は、各段落の始めに接続詞・指示語を用いることでそれぞれの段落の関係が非常につかみやすくなっており、「序論」「本論」「結論」の構成となっている。「本論」はさらに二つに分かれている。

内容に関しては、環境を汚染しない製品の開発や、汚染された環境を元の状態に戻す方法における微生物の活躍をわかりやすく説明し、微生物の働きを人間生活に例えるなど、分かりやすくするための工夫もなされているため、生徒にとっては取り組みやすい教材である。

本単元は「書くこと」の学習との関連を図ることができる単元でもあるため、この文章で学習したことを有効にいかしながら生徒が自ら書くことをねらいとしている。

### 指導観

説明的文章では、文章の要約や構成を中心に学習してしまいがちになり、内容を理解させようとするほど筆者の工夫された表現のおもしろさや、内容の興味深さから離れてしまいがちである。そこで、「題名」の持つ意味を考えさせたり、筆者の主張から生徒の興味が離れないようにしていきたい。また、説明文には生徒にとって意味の難しい言葉が出てくるため、語句の意味をしっかりと理解できているかどうかを確認しながら指導していきたい。また、説明文を読むときの基礎・基本となり得る接続詞に着目させたり、筆者の論の進め方の工夫をつかむことや要約することを織り交ぜていくことで、「書くこと」の学習につながるよう指導していきたい。

「書くこと」の指導においては、市毛勝雄氏（早稲田大学教授）が「作文の授業改革論」の中で、『説明文の作文（論理的な構成を持った生活文）の指導をするとしたら、説明文教材の学習の次に作文指導を続けて行うのが効果的である。』と述べている。

そこで、「市毛式生活作文の書き方」を用いて論理的な文章の書き方を学ばせることによって、生徒の書く力を養っていきたい。そこで、本時は説明文の学習で学んだ文章の構成を意識しながら自分の課題をたてて作文を書く書き方について学びとらせたい。その際、課題が見つけやすいように分類地図を使ったり構成表を書かせ、構成のしっかりした文章が書けるような手立てとしたい。

4. 単元の指導計画及び評価計画（全9時間）

時	学 習 活 動	国語への関心・意欲・態度	読む・書く能力	言語についての知識・理解・技能
1 第1 次	課題を意識させ、初発の感想を交流しあう。	自分の感想を進んで発表しようとしている。	【読む】 課題を踏まえて文章を読んでいる。	新出漢字や新出語句を理解している。
2 3	時間に着目しながら文章を3つに分けることで展開をとらえたり、それぞれの関連性や役割をpushさえる。	文章中のキーワードに注目し、全体の内容をつかもうとしている。	【読む】 時間に着目して文章の構成をとらえている。	「序論」「本論」「結論」の構成とそれぞれの役割が分かる。
4	「序論」の内容を理解し、その役割を確かめる。	身の回りを振り返り、関心をもって文章を読もうとしている。	【読む】 「序論」の内容をとらえ、その役割を理解している。	語句の意味を文脈に沿ってとらえている。
5	「本論」の構成とその役割を理解する。	身の回りを振り返り、関心をもって文章を読もうとしている。	【読む】 指示語や接続語に注意し、段落と段落の関係を理解することができる。	語句の意味を文脈に沿ってとらえている。
6	題名に着目し、「結論」を読み取る。	身の回りを振り返り、関心をもって文章を読もうとしている。	【読む】 結論の内容と、筆者の構成の工夫である「序論」「本論」「結論」の結び付きについて理解している。	語句の意味を文脈に沿ってとらえている。
7 第2 次 本時	作文の書き方について学習する。	説明文で学んだ構成を意識しながら作文を書くための方法について関心をもって取り組もうとしている。	【書く】 分類地図をもとに、構成メモを作っている。	テーマや書きたい内容にあった言葉を挙げている。
8	「序論」「本論」「結論」という構成になるようなミニ作文を書く。	説明文で学習した構成を生かしながら文章を書こうとしている。	【書く】 構成を意識した文章の書き方を理解している。	既習の漢字を使いながら文章を書いている。
9	書きあがった作文を推敲し、みんなの前で発表する。	作文の書き方に注意して推敲し、みんなの前で積極的に発表しようとしている。	【書く】 全体を読み直し、筋道の通った文章を書いている。	文体や誤字脱字などを正しく直して書いている。

5. 本時の学習

○目標 ・自分の考えを書くために構成メモを書くことができる。

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
<p>1. 作文を書く目的や方法分量などについて知る。 【5分】</p> <p>2. 自分が書く内容を見つけるために、分類地図に記入する。 【15分】</p> <p>3. 自分の作った分類地図を使って構成表を書き、内容を整理する。 【20分】</p> <p>4. グループで発表する。 【5分】</p> <p>5. うまく書けた構成表を紹介する。 【5分】</p>	<p>○見通しが持てるように教師が参考例を示す。 (教師の書いた作文を読む。)</p> <p>○分類地図の使い方について説明する。 ○何を書いてよいか分からない生徒がないように、書き方の例を黒板に示す。 分類地図をどのように使って教師が作文を書いたのかを示す。</p> <p>○「はじめ」「なか」「まとめ」にあった文章が書けるように構成表の例を示す。 具体例を最初に書くと書きやすいことを伝える。</p> <p>○「はじめ」が書けない生徒には教師が例を提示する。</p> <p>○身近な人の意見を参考にさせるために事前にグループ内で交換し合う。</p>	<p>分類地図を埋めることができているかどうかを確認する。 【分類地図・観察】</p> <p>「なか」の部分に実際の例が挙げられているかどうかを確認する。 【構成表】</p> <p>【観察】</p>

○本時の具体的な評価規準

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を要すると判断される生徒の具体例
分類地図を生かし、具体例を二つ入れて構成表ができている。	分類地図から構成表が書けている。	自分の書きたい内容を整理して、書こうとしている。